サトイモ湛水畝立て栽培における入水量の目安

水田のサトイモ湛水畝立て栽培では，水尻から流出がみられる程度の掛け流しで，十分な収量が得られる

背景・目的

・サトイモ湛水畝立て栽培では，子いも等の着生数が増加し，収量・品質が向上
・本葉5枚目展開時より約3か月間，掛け流しながら湛水するが，この時期は水稲栽培と競合
・用水量の少ない地区では，入水量の目安が必要

成果の内容

〇サトイモ湛水畝立て栽培では，水尻から流出がみられる程度の掛け流しで，十分な収量が得られる
・減水深20mm程度の水田では，入水量が156t/日と61t/日（水尻から流出がみられる程度）の掛け流しの条件下では，収量に差はみられない
・入水量は水量マスを作成することで，簡易に測定可能

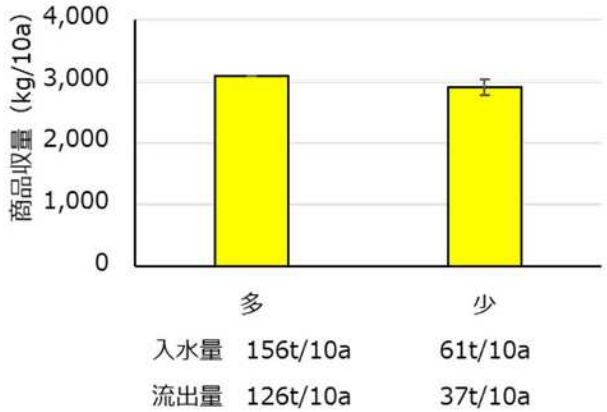
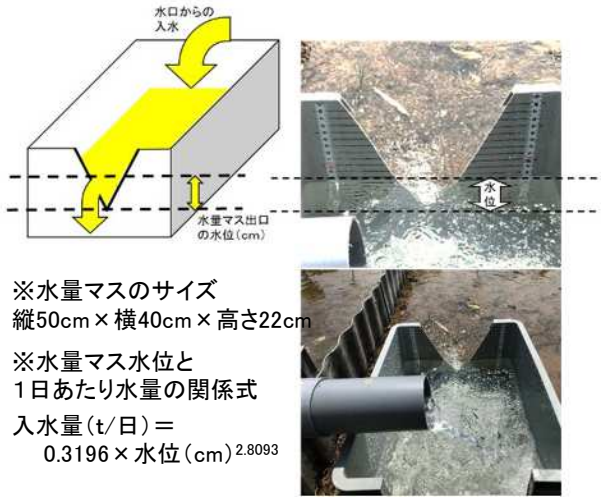


図1　入水・流出量の違いによる収量
注）現地試験の結果（R3）



※水量マスのサイズ
縦50cm×横40cm×高さ22cm

※水量マス水位と
1日あたり水量の関係式

入水量（t/日）＝
$0.3196 \times$ 水位（cm）$^{2.8093}$

図2　入水量は水量マス水位で把握
注）水量マス出口は正三角形でカット

期待される効果

〇水田の高度利用がなされ，栽培農家の収益が向上
〇計画的な水利用により，水稲栽培との競合を回避

写真1　サトイモ畝立て湛水栽培

〇普及対象・範囲
県内湛水畝立て生産者

鹿児島県農業開発総合センター
生産環境部土壌環境研究室

(R03)